

評価委員会総合評価

研究課題名：(地方共同研究)LETKF を利用した広島県の大雨の調査

評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高薮出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成 29 年 2 月 17 日

1. 総合評価

- (1) 採用の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

具体的な研究計画になっており、計画通り着実に実施すれば期待された成果が得られると考える。

気象研究所と広島地方気象台の役割分担もしっかりできており、ワークシートの作成など予警報作業に役立つ成果が出ることを期待するとともに、アンサンブル予報の現場での利用法に結び付く知見が得られることも期待する。

顕著な気象現象事例をいろいろな手法を使って理解することは大切であり、地方共同研究として高く評価できる。

線状降水帯等による局地的な豪雨に対し、気象台が適切に予測や防災情報の提供ができることは、極めて重要である。広島地台では、大雨に対して、最新の技術のひとつである LETKF を用いた調査・研究がすでに行われており、基礎的な力と人材が育ちつつあると思われる。それを活かし、発展させる調査であることから、研究の進め方等、適切である。

研究成果を現場の施策へ活用することは重要である。本研究で得られる知見や着目点を予報現業に適用し、課題を共有し、解析をともに進めることは、現場職員のスキルアップを図るためにもぜひ推進すべきである。

本研究の目的、目標、進め方は適切であり、研究の成果も概ね期待できると判断できる。今後は以下の点に留意しつつ、提案された研究計画を進めるべきである。

- ・同様なテーマで今年度まで行われた地方共同研究の延長版であり、終了課題は十分な成果が上がったとは言えなかった。事例数を増やすため、広島県に限定せず例数を稼ぐ必要があるのではないかと。また「線状降水帯を含む大雨の発生要因とその要因と最も関連性のある気象要素」の整理に関しては、技術開発推進本部の診断的予測グループが取り組んでいるテーマでもある。予報研究部第三研究室担当者の研究協力による情報交換が重要と考える。
- ・現業予報の改善は、大雨発生の判断基準を現場で設定する方法よりも数値予報やレーダによる実況的な予報の改善にゆだねて、本研究では、「アンサンブル

予報の理解と利用法」例や「大雨発生を注意すべき大気環境場」例といった現場資料の作成を目標とした方がいいのではないか。

- チャレンジングな研究であることから、目標を絞り、着実な成果を出してほしい。
- これまでの地方共同研究こういった知見が得られていて、実況監視項目に結びつけるにはこういった知見を得る必要があるのかを具体的に検証すべき。